

# 父に会えば、きっと幸せに

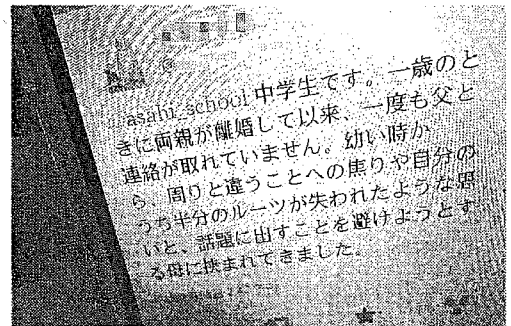
いま No.451  
子どもたちは  
親が離婚した… 2

「お父さんに会いたい」  
神奈川県に住む中学2年の女  
子(14)はそう願う。  
1歳のときに母と別れ、どこ  
で何をしているのかわからな

い。会っても何を話せばいいの  
かわからない。でも——。一父  
を知らないから、自分のことも  
わからない気がする。いつまで  
も自分に自信が持てず、大人に  
なれないようで怖い」  
一人っ子。祖父母の家に同居  
し、母はパート勤務で深夜まで  
帰宅しない。その母は時々、自  
分に八つ当たりをしたり、一人  
で遊びにでかけたりする。「私  
はきつと望まれて生まれたわけ  
じゃないんだ」

母は未婚のまま自分を生んだ  
のだと勝手に思い込んでいた。  
離婚の事実を知ったのは小学2  
年のとき。学校の授業で、赤ち  
ゃんのころの写真が必要になっ  
た。母が出してきた写真には、  
生まれたばかりの自分に添い寝  
する母と、笑顔でピースサイン  
をしている「知らない男の人」  
が写っていた。なんだか幸せそ  
うに見えた。

「あなたにはお父さんがい  
る。今は事情があって別れて暮  
らしている」。それだけ言う  
と、母は泣き出してしまった。



「お父さんに会いたい」という中2  
女子がツイッターでつづやいた画面

驚くとともに、「これ以上は母  
に聞いてはいけないんだ」と感  
じたという。

母の外出時をねらい、自宅の  
棚やタンスなどをあさった。よ  
うやく見つけた母子手帳で、父  
の名前を知った。東京の住所が  
記されていた。

「お父さんは東京にいる！」  
小学4年の授業で「学校から  
見えるもの」を写生するよう言  
われた。見えるはずのない東京  
タワーを描いた。一人で電車を

乗り継ぎ、母子手帳の住所を訪  
ねたこともあるが、見つけれ  
なかった。インターネットで氏  
名を検索してみたが、今も所  
在はわからない。

寂しさ、悲しさ、悔しさ。感  
情にフタをして「サイボーグの  
ように」日々をやり過ごしてき  
た。「お父さんに会えば、幸せ  
になれる。自分でそう期待して  
いるんです」。昨年末、母に内  
緒で父へのクリスマスプレゼント  
の紺色のマフラーを買った。  
いつか会う日のために、机の奥  
に大事にしまっている。  
(古田真梨子)